

令和8年度 事業計画書



学校法人 香川学園

目 次

1. はじめに	1
2. 事業の概要	2
(1) 大学・短期大学部	2
(2) 高校・中学	3
(3) 幼稚園	5
(4) 宇部環境技術センター	7
(5) 法人	7
(6) 施設設備整備	8

1. はじめに

学校法人香川学園は、明治 36（1903）年に香川昌子が開設した香川裁縫塾が起源となっています。香川昌子は、当時ではまだ少なかった「女子教育」に主眼を置き、手に職をつけ人格的にも優れた女子を社会に輩出していきました。その後香川裁縫塾は、いくつかの変遷を経て、昭和 26（1951）年に学校法人香川学園として認可されました。令和 6（2024）年度現在、香川学園は、大学、大学院、短期大学、高等学校、中学校、幼稚園及び収益事業部門である宇部環境技術センターから成る総合学園として、地域に根差した教育・事業を行い、地域貢献に励んでいます。

私たちは、創始者である香川昌子の建学の精神を「人間性の涵養と実学の重視」と捉え、この教育理念の実現のため、「学校法人香川学園中期計画 令和 7（2025）年度～令和 11（2029）年度」を策定し、計画的な教育の実施及び施設設備の整備に努めています。この中期計画は、年度末に進捗状況を自己評価し、次年度の改善に繋げています。

中期計画達成に向けて、年度ごとの計画を着実に実行していくとともに、理事会でしっかりと進捗管理を行います。建学の精神に基づく教育目的達成のため、PDCA サイクルを回し続けることで、教育研究の更なる改善とより多くの地域貢献・社会連携に取り組んで参ります。

設置する学校の教育目的

大学	人間性の涵養と実学を重視する学園創始の理念に基づき、教育基本法及び学校教育法の趣旨による大学教育を施し、人類の持続可能な社会の発展と福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
短期大学部	「人間性の涵養と実学の重視」という建学の精神に基づき、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、人格の完成をめざし、一般教養を高めるとともに、専門の学術に関する高度の知識技能を授け、知的、道德的及び応用的能力のある有為の人材の育成を目的とし、もって文化の発展に寄与し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを使命とする。
高等学校・中学校	日本国憲法の精神に則り、教育基本法、学校教育法、私立学校法に基づいて生徒個々の人格の完成を計り、平和を愛する民主的な文化国家、社会並びに家庭の有為なる形成者として必要な資質を養うため、高等学校にあつては高等普通教育と実際の専門職業に関する知識技能に重きを置く職業教育を施し、中学校にあつては中等普通教育を施し、人類の福祉と文化の創造発展に寄与することのできる心身共に健全な国民を育成することを目的とする。
幼稚園	学校教育法及び幼稚園教育要領に基づき、幼児を保育し、適切な環境を与え、心身の調和のとれた発達の基礎を培うことを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 大学・短期大学部

想像以上のスピードで進む少子化の影響などを背景として、宇部フロンティア大学・短期大学部ともに定員割れの状態となっています。本学運営の継続性・永続性のために中期計画（2025～2029 年度）の下、引き続き入学者の確保に努め運営の安定化を図ります。

① 入学者確保のため、多様な価値観が集まるキャンパスを構築します

本学付属高校をはじめ県内の高等学校との連携を図ることに加えて、社会人や留学生を積極的に受け入れて、あらゆる世代やさまざまな人が学ぶ「多様な価値観が集まるキャンパス」を目指します。

そのためにも多様な学生に対する相談・支援を行う部署として学生支援室を設置します。さらに、現在の奨学制度の建設的見直しや、校納金減免制度（社会人減免制度、子女・兄弟姉妹減免制度、社会的養護出身者減免制度など）の導入について検討してきましたが、2026 年度は親子・兄弟姉妹奨学金制度（施設設備費の全額免除）を創設しました。

また、短期大学部から大学、専門学校から大学への編入について、制度の確立を進めていきます。

② 小規模の特色を生かしたさらなる教育の質保証を推進します

入学者数に合わせたダウンサイジングを検討するなかで、2026 年度より入学定員を大学（看護学科 50 名、心理学科 40 名）、短期大学部（保育学科 40 名、食物栄養学科 40 名）に削減しました。このことにより教育の質の保証という点では、小規模で少人数による教職員との強固な結びつきを本学の「強み」や「特色」としてより明確化し、「知の総和」（人の数と、それぞれの人の能力の掛け合わせ）を実践していきます。教職員との親密な関係の下、それぞれの学科での専門性の修得に加えて、DX の推進やこれからの AI（人工知能）社会を生き抜くために必要なリテラシーを獲得する教育を実施します。

国家試験（看護師、保健師、公認心理師）の合格率 100% を目指すための取り組みを進め、さらに就職率 100% を目指した、きめ細かなキャリア教育・キャリア支援体制を実施します。

これらの活動を可能にするためにも教職員の資質向上として、ティーチングポートフォリオを取り入れた教員評価制度の実施、医学系及び人文社会系の研究に対応した研究倫理審査体制の整備、これらも含めた FD・SD を計画的、効果的に実施します。

③ 地域の課題解決や連携協力を実施し、地域に必要とされる高等教育機関になります

地域で求められる専門的知識を有した教職員を派遣し、地域の将来ビジョンを共有したうえで地域の課題解決に向けた連携協力を推し進め、地域から選ばれ、地域に必要な高等教育機関としての存在感を確立します。

その他、外部団体との連携協働の実現を図りながら、地域からの学生ボランティアの要請

に対応する仕組みを見直し、教職員・学生ボランティアによる地域貢献を強化します。

本学の特徴となる学問分野や取り組みを広く地域に広報し有効活用を促すためにも、コロナ禍で中断している市民を対象にした公開講座を 2025 年度から再開しており 2026 年度はさらに拡大していきます。

④ ステークホルダーとの関係を強化し、ブランド力を醸成します

ステークホルダーは元より OB・OG との繋がりをさらに強化し、Win-Win の関係を構築しさまざまな支援を得ながら地域に根差した高等教育機関としてのブランド化を図ります。

⑤ ガバナンスを強化し、中期計画を着実に実行します

2025 年度からの私立学校法改正をふまえ、ガバナンスの質向上を図ります。外部資金の獲得を推進するために UF-FUND ならびにふるさと納税を充実（広報、依頼、集金方法等）させ寄付金収入の増額を図ります。

（２）高校・中学

（基本方針）

① 「時代や社会に立ち向かって生きる人材を育てる」をスクールミッションに掲げ、中期計画の 2 年目を迎えます。多くの情報があふれ、めまぐるしく変わってゆく社会の中でも、進むべき道を決めた人は、惑うことなく力強く歩むことができます。生徒一人ひとりの自主性を尊重し、時代を生き抜くたくましさ育てる教育を進めます。それが、地域の皆様や卒業生に支えられた 124 年の歴史を誇る香川高校の使命です。入学した生徒が前向きな気持ちで毎日を過ごせる「温かい学校」になるよう努め、社会に貢献して参ります。

そのために、「自立を促すための授業の創造」、「主体性を持って協同する態度の育成」、「多様性を重視し活かし合える資質の育成」など、教職員の意識改革に基づく積極的な実践を進めます。また、学校を取り巻く様々な環境にいち早く対応し、地域社会の要請に積極的に応えるために、高等学校の学科再編および時代に沿った教育課程への改訂を進めます。

（高校普通科）

② 高校普通科の令和 7 度大学入試では、現在までに国公立大学 5 名の合格者を出すことができたほか、中央大学、同志社大学などの有名私立大学への合格者も出してきました。昨今では山陽小野田市立山口東京理科大学の人気の高まっています。普通科進学コースにおいて県内の公立大学への進学実績を高めたいと考えています。

国の大学入試改革も紆余曲折を経ながら進み、令和 3 年度入試から始まった大学入学共通テストが 4 年目となる一方、令和 4 年度から新学習指導要領の全面実施に伴い高校の教科「情報」の内容が大きく変わり、令和 7 年度の大学入試共通テストの科目に加え

られるなど大学受験を取り巻く情勢も常に変化しています。本校としては引き続き進路指導や個別指導等の充実を図ることにより、多くの生徒が希望の大学等へ進学できるよう努めます。

令和 8 年度入試における、高校授業料無償化にともなう入学者数の増加は普通科で顕著であったので、今後一層普通科の特色を前面に押し出した広報活動も検討していきます。

（高校専門科）

③ 高校専門科は、これまで同様、通常の授業に特別講師を招聘し、一流の技と心を学ぶことを通じて専門的実践能力を身につけさせ、地域を支える優秀な職業人材の育成に努めます。またアクティブ・キャリアとして、地域行政や企業等との連携、コンクールへの挑戦により、平素の学習成果をアピールしていきます。令和 7 年度も牛乳・乳製品利用料理コンクールで最優秀賞を受賞しました。また、ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールで多くの賞を受賞しました。色彩検定 1 級受験のための補習授業を土曜日に実施した結果、合格者が過去最高の 6 名でした。今年度も同様に多くの合格者を出したいと考えています。

（中学部）

④ 中学部は、少子化傾向や私学間の競争の激化などの影響もあり、近年は入学生が減少傾向にありましたが、令和 8 年度入試では現在 65 名の入学を予定しています。大幅に増加した主たる原因について、入学生やその保護者への聞き取りを中心に分析する予定です。

今年度も学校説明会や授業体験会、授業見学会、入試プレテストを積極的に開催し、さらには塾訪問の徹底など生徒数確保に努めます。また、授業の充実を図るとともに、学校行事については生徒主体の新たな取り組みを奨励しつつ、心身共に健全でたくましい生徒の育成を図ります。

（その他の中学・高校での主な取組）

⑤ ICT 教育の推進を図るため、全校生徒全員が個人のタブレット端末を使用することで、情報収集・活用能力や教科の理解力の向上に役立てていきます。

⑥ 普通科 6 年コース及び特進コースでは、本校からの大学進学者や本校卒業の社会人と在校生の間の交流会（卒業生と語る会）を、進学コースでは 3 年生が後輩に語る「進路を考える会」を開催し、生徒の進学意欲や職業選択意欲を高めます。

⑦ 地域や各種団体、企業等との連携を推進し、生徒の主体的な体験型学習の場を学校外に求めることを推進します。そのために、学習をリードするコーディネータを招きワークショップ等を通じて充実を図ります。

⑧ 旅費の高騰によりシンガポールやオーストラリアへの語学研修が難しくなってきた

たので、新たに体験型海外研修を企画します。令和7年度も年度末にカンボジアでの研修を実施する予定です。比較的安価で参加可能な家庭が増えてきました。状況をよく分析し、世界に飛び出す意欲を持つ生徒の育成に向けた海外研修を継続し、その成果を校内に普及させます。

⑨ 校務支援システム BLEND を導入し校務の DX 化を継続します。令和7年度も入試業務に WEB 出願と WEB 決裁を導入しました。反省を生かしよりよいシステムに改善します。また、DX 化に伴い、校務分掌組織の見直しを図ります。

⑩ 教員の働き方改革が社会的課題として取り上げられている中、本校においても実効性のある取り組みが求められています。年間を通じた変形労働時間制の制度設計を行い実施していますが、令和8年度は年度当初に申請した年間の計画を夏期休業に入る前に修正する機会を設けより実効性の高いものとする予定です。

⑪ 令和9年度から、中学校、高校普通科6年コースおよび特別進学コースの土曜日授業を取りやめる方向で教育課程の整備を進めます。できれば、1単位時間を50分から45分へと短縮したいと考えていますが、近隣の実施校に倣いながら授業時数の確保について検討を進めます。

（奨学事業）

⑫ 令和8年度入試から、高等学校の授業料無償化に伴う新しい奨学制度を適用しました。8年度から授業料を一部値上げしましたが、無償化の支援内に収まるので保護者の授業料負担は全くありません。また、中学校においても兄弟姉妹在学優遇制度規程を改正し、さらに附属中学校の卒業生の子女に対する奨学制度を新設しました。今後、このことについて広く広報活動を行い入学者の増加に努めます。また、県内の私立高等学校・中学校の奨学制度をよく分析し、本校独自の奨学制度についても検討を進めます。

（国際交流）

⑬ 現在は特定の学校との交流事業は進めていませんが、令和6年度から実施しているカンボジアへの体験型研修で現地の小学校を訪れています。現地での情報を収集しつつ、オンラインで現地の学校とつながり、全校あげての交流につながる可能性を模索していきます。

（3）幼稚園

最近の少子化、保育の低年齢化及び共働き家庭の増加等により、園児数の確保及び預かり保育利用者急増への対応が喫緊の課題となっています。そのため、幼稚園の魅力づくり、教職員の保育技能のレベルアップを図ります。また、認定こども園（幼稚園型）への移行を検討します。

① 園児数の確保・子育て支援プログラムの充実

- ・令和9年度認定こども園（幼稚園型）への移行についての準備を進めます。
- ・保育の低年齢化に対応するため、未就園児対象の「あつまれちびっこ」及び2歳児対象の「ひよこ組」の充実を図ります。
- ・就労する保護者の増加に伴い、放課後や長期休業中の「預かり保育」を充実させます。
- ・園全体のイメージアップを図るため、教職員のあいさつ、言葉遣い等の対応力を向上させるとともに、ホームページやインスタグラム等 SNS を活用して活動の紹介を行います。
- ・大学、短期大学部、高校等と連携し、子育て支援の充実を図ります。

② 教職員の資質向上による園のレベルアップ

- ・OJT（On the Job Training）により、ベテラン教諭のもっている保育技術等の経験値と力量を中堅・若手へと継承するシステムを機能させ、数年後の世代交代に備えます。
- ・園内研修を充実させるとともに、園外研修を活用して教職員の資質向上を図ります。

③ 特別支援教育の充実

- ・配慮や支援を必要とする園児に支援員を加配し、個々の実態に応じた指導内容・方法の充実に努めます。
- ・療育施設・病院・言葉の教室・保健センター等と連携した保育を行います。
- ・特別支援教育に関する教職員研修を充実させ、配慮や支援の必要な園児、発達障害の傾向のある園児についての対応方法について理解を深めます。

④ 危機管理の充実

- ・園児の安心・安全を守るために、「バス送迎時の対応」「救急救護法」「不審者対応訓練」「アレルギー対応」などの実務的な研修に取り組むとともに、ヒヤリハット事案の共有を図る研修を行います。
- ・事故・災害等の緊急時「対処マニュアル」「避難マニュアル」「防災計画」「防災マニュアル」等の見直しを行い、教職員の危機管理意識を高めます。
- ・事故を未然に防止するため、業者及び職員による遊具の保守点検を確実に実施します。

⑤ 施設・設備管理の充実

- ・保育室照明のLED化、屋根防水工事等を計画的に実施していきます。
- ・節約意識の徹底により、光熱費、消耗品費等の節減を図ります。
- ・バス利用者の減少に伴い、バス路線の縮小と台数削減について計画します。

⑥ 幼小連携及び地域連携の推進

- ・園児と小学生との交流、教職員による相互授業参観等により連携を深めます。
- ・「藤山ふるさとまつり」などの地域行事に積極的に参加・協力を行い、地域連携を推進します。

（４）宇部環境技術センター

① 経営体質の強化

- ・学園の発展のために、収益部門として黒字収支の増加を目指した県内全域での受注増加を目指します。
- ・大気、水、土壌など環境全般の総合的な調査分析を行い、SDG s 達成の一翼を担っているという認識の上で、事業活動に取り組みます。
- ・DX の実施による業務の簡素化について検討を進めます。
- ・香川高校及び附属中学校の生徒及び教員を対象として環境分析と SDGs の関係を学ぶ実習「ハカラボ」を引き続いて開催します。
- ・環境 DNA の実施に向け準備を進めます。
- ・センターで実施可能な新規事業について調査・研究を行います。

② 特色ある業務の遂行

- ・既存備品の適時更新を実施します。
- ・人件費削減のための新規備品導入を検討します。
- ・老朽化した施設等の修理及び部分的な建て替えについて検討し、逐次実施します。

③ 将来を見据えた組織体制の確立

- ・センターの長期的な展望について議論し、将来を見据え安定した体制を確立します。

（５）法人

① 経営安定化の取り組み中期計画の策定と確立

- ・各所属の中期計画の進捗をとりまとめ、中期計画が着実に実行されているか確認します。

② 財務基盤の強化

- ・各所属の中期計画に基づく財務中期計画（令和 7 年度～令和 11 年度）を策定し、年度の実績値や予算を反映させ、常に見直しを行います。
- ・資産運用管理規程に基づいた資産運用を行い、受取利息・配当金収入の最大化を図ります。
- ・学園のウェブサイト寄付金のページを作成するなど、寄付金募集の促進を行い、税額控除制度に申請します。
- ・人件費抑制を基本とする人事給与施策を実施し、人件費比率 60%未満を目指します。
- ・中期計画期間に金融資産が減少しないよう、毎年の予算編成方針を策定し、予算執行を実施します。

③ 施設設備整備

- ・短大旧校舎、旧校舎の敷地及びグラウンドの在り方について理事会において検討します。
- ・老朽化した建物及び附属設備について、財務状況を確認しつつ、優先度の高いものから修繕や更新を実施します。
- ・学園の施設設備利用に関する諸規程を見直し、規程の改廃を行います。

④ 理事会のガバナンス強化

- ・内部統制システムの稼働が適切かどうか確認し、必要に応じて改善を行います。

- ・学園運営のリスク評価を行い、リスク発生に備えます。
- ・私立大学協会のガバナンスコード 2.0 の公表を受け、大学・短大のガバナンスコードを改正し、点検・評価を実施します。

（６）施設設備整備

教育環境整備並びに教育サービスの向上等を目的とし、以下の設備更新等を行います。

（単位：千円）

大学・短期大学部	エレベータ更新工事	36,300
	コンピュータ演習室 PC 入れ替え	1,800
高校・中学	駐輪場増設工事	7,150
	校舎 LED 化工事	5,632
幼稚園	教室 LED 化工事	450